

「注視点」から見る中国語における“V 着”の成立条件

Conditions for the Occurrence of “*Vzhe*” in Chinese

from the Perspective of “Focal point”

何 静

HE, Jing

摘要

Numerous studies have focused on the nature and semantic characteristics of verbs regarding the conditions required to establish the "*Vzhe*(着)" structure in Chinese. The aspect particle "*zhe*(着)" generally has good compatibility with stative verbs, such as "坐" (sit) and "躺" (lie), as well as durative verbs like "看" (watch) and "挂" (hang). Conversely, it has been pointed out that non-durative verbs like "坏" (break), "开始" (start), "牺牲" (sacrifice), "开" (open), "摔" (fall), "消失" (disappear) and "死" (die) exhibit lower collocational compatibility with "*zhe*(着)". However, the acceptability increases if adverbs expressing continuity or persistence, or if highly descriptive state adjectives are added or when they are placed in parallel sentences. Despite these occasions, there remain examples of ungrammatical sentences. In this study, we draw upon the concept of "focal point", which is a subclass of "perspective", to examine the conditions under which non-durative verbs can co-occur with "*zhe*(着)". First, based on previous research, we redefine "focal point" and further classify it into "discontinuous focal point" and "continuous focal point". According to this framework, it is considered that the "*Vzhe*(着)" structure is not established when the focal point in the sentence is "discontinuous focal point", whereas it is established when the focal point is "continuous focal point". Furthermore, by examining of the "*Vzhe*(着)" structure from the perspective of "focal point", it is also noted that even with the same verb, the meaning expressed by the verb differs depending on whether the focal point in the sentence is "discontinuous focal point" or "continuous focal point".

キーワード：非持続動詞 “V 着” 断裂的注視点 非断裂的注視点

Keywords: non-durative "*Vzhe*(着)" "discontinuous focal point" "continuous focal point"

1.はじめに

中国語における“V 着”の成立条件については、動詞の性質や意味特徴に基づいた研究が多

く見られる。アスペクト助詞“着”は一般に、“坐”、“躺”、“看”、“挂”といった持続動詞と相性が良いのに対し、“坏”⁽¹⁾、“开始”、“牺牲”、“摔”、“消失”、“死”のような非持続動詞⁽²⁾は“着”と共起しにくいことが指摘されてきた（马庆株 1981、刘月华・潘文娣・故韡 2019、郭锐 1993、左思民 2009、杨玉玲・应晨锦 2011 等）。例えば、次の例（1a）の“坏着”、例（2a）の“开始着”はいずれも不適格であるが、実際の使用例をコーパスで調べてみると、非持続動詞である“坏”、“开始”の前に状態の持続を表す副詞“还”や、時間を表す副詞“早已”を付け加えることにより、例（1c）、例（2c）で示すように“坏着”、“开始着”の容認度が高まる。

(1) a*村街头的排水沟坏着。/*这个杯子坏着。

b*这个杯子还坏着。

c 雨季到了，村街头的排水沟还坏着，她花 3000 多元把它修好；……

（福建日报 2006/08/30 BCC）

[雨季になったが、村の通りにある排水溝がまだ壊れていたので、彼女は 3000 元以上かけて修理した。]

(2) a*蒙汉两区人民开始着一种新的贸易关系。/*苏联的天气考察船开始着它的第一次航行。

b*苏联的天气考察船早已开始着它的第一次航行。

c 蒙汉两区人民在中国共产党的统一领导下，早已开始着一种新的贸易关系。

（人民日报 1949/06/09 BCC）

[モンゴル族と漢民族の人々は中国共産党の統一指導の下、とつくに新たな貿易関係を構築し始めている。]

一方で、例（1b）、例（2b）のように“还”や“早已”を付け加えても、“坏”、“开始”と“着”との組み合わせが必ずしも成立するとは限らない。それに対し、例（1c）の“坏着”、例（2c）の“开始着”が成立するのは、文中の体詞項である「排水溝」、「貿易関係」の状態変化から一種の持続性が見られるためであると考えられる。具体的に、例（1c）の壊れた「排水溝」は修復されて再び壊れていない状態から壊れた状態に、例（2c）の開始している「貿易関係」が中止されて再び中止の状態から開始の状態に変化し得る。つまり、「排水溝」の状態は「破損、修復、破損…」のように変化することが可能であり、「貿易関係」の状態は「開始、中止、開始…」のように変化することも可能である。「排水溝」、「貿易関係」の状態変化は循環的であり、「排水溝」が修復される前に、その壊れている状態が持続しており、「貿易関係」も同様である。ここから状態の持続が読み取れるため、たとえ文中の述語動詞は非持続動詞であっても状態の持続を表す“着”と共起することができるものとする。

動詞とアスペクト助詞“着”の共起関係については、従来の研究では、“着”の文法機能や、動詞の意味的性質のみに注目するものが多かったが、このようなアプローチに加え、文中の体詞項にも注目し、“着”の成立条件を改めて検討する必要があると考える。本稿では、モノ・コトの見方を反映する「視点」の中でも、特に「注視点」の観点から、非持続動詞が“着”と共起し得る成立条件について考察していく。

言語学における「注視点」の研究には、「注視点」の差異に基づく言語表現の違いに関するものが多く見られる。例えば、靱山 2010 は同じ物事の異なる部分に注目することによって、「早慶戦・慶早戦」のような言葉の違いが見えてくると述べている。また、下地 2011a、2011b は、出来事の時間的構成のどこを見ているかによって、中国語における“了・着”が使い分けられるとし、中国語では、出来事の開始限界か終了限界といった境界へ到達し、この状態変化が確実に生じたことを重要な情報として伝達する場合、“了”が用いなければならない。これに対し、文中に動作の様態を示す成分を加え、注視点を到達部分から到達後の状態の部分にずらせば、“了”を用いることはできなくなり、“着”のみが適切となると主張している。

本稿では、変化の起こったものが人々の「注視点」になりやすいという宮崎・上野 1985 の指摘に基づき、文中において状態変化の起こった体詞項が「注視点」になると考え、更にこの「注視点」を「断裂的注視点」と「非断裂的注視点」に分類する。そして、この枠組みに従い、文中の注視点が「断裂的注視点」である場合、“V着”構造は成立しないのに対し、文中の注視点が「非断裂的注視点」である場合、“V着”構造は成立し、たとえ当該の述語動詞が非持続動詞であっても“着”と共起できることを指摘する。

2. 先行研究の概要とその問題点

「視点」という概念を積極的に言語学に導入した研究としては、大江 1975、久野 1978 などの論考がよく知られている。70 年代後半から、日本語における視点研究は活発に行われてきた。「視点」は通常「視座」と「注視点」の 2 つの意味で用いられる。「視座」とは、どこから見ているかというときの「どこ」を指すのに対し、「注視点」とは、どこを見ているかというときの「どこ」を指すと理解するのが一般的である（久野 1978、山田 1985、宮崎・上野 1985 等）。これまでの視点研究においては、日本語は「視座」に深く関与するのに対し、中国語は「注視点」に関与することが指摘³⁾されており、日本語の視点制約は中国語には当てはまらないと主張する先行研究が多く見られる（古賀 2018、張芑蕾 2019）。一方、現代中国語における「視点」の研究は未だ多くない。日中両言語の対照研究において、下地 2010、2011a、2011b などの一連の論考をはじめ、張芑蕾 2019、古賀 2018 などが見られるが、十分とは言えない。特に、どのようなものが注視点になりやすいか、注視点の選択にはどのような制約条件があるのか、注視点の本質とは何かについて、更に掘り下げて考察する必要がある。

例えば、下地 2011a、2011b は、中国語における“了・着”の選択には、出来事の時間的構成のどこを見ているかという「注視点」が関わっていると指摘している。下地 2011a によれば、次の例 (3) の文脈からは、お湯が沸騰していない状態から沸騰した状態になることが読み取れる。その境界（お湯が沸騰していない状態から沸騰した状態）への到達部分に注視点を合わせる場合、“了”が選ばれるのに対し、例 (4) は、文中に動作の様態を表す“哇哇地”を加え、注視点を泣いた後の状態の部分に合わせる場合、“着”が選ばれると、下地 2011b は主張している。

(3) 好，水开了。 / ??好，水开着。

[よし、沸いた。 / ??よし、沸いてる。]

(下地 2011a)

(4) a*小孩子哇哇地哭了。你去看看。

[子供がワーワー泣いた。見てきなさい。]

b 小孩子哇哇地哭着。你去看看。

[子供がワーワー泣いている。見てきなさい。]

(下地 2011b)

しかし、このような注視点の相違が文脈の中で実際にどのように捉えられるか、また具体的にその注視する対象が、どのような状況で「境界への到達」という状態変化となるか、どのような状況で変化後の状態となるかについては言及されていない。さらに、以下のような反例も見られる。例 (5a) の注視点は、リンゴが腐っていない状態から腐った状態になるという境界への到達部分にあるため、“了”が選ばれている。一方、例 (5b) の注視点は、リンゴが腐った後の静的で均一な状態にあるため、“着”が選ばれるはずであるが、例 (5b) は文としての容認度がかなり低い。そして、下地 2011b によると、例 (6) で示すように、文中に“放心地”のような動作の様態を表す成分を加えれば、この場合の注視点は到達後の状態の部分にあると考え、“了”を用いることはできなくなり、“着”のみが適切となる。しかし、例 (6b) の“笑着”の適格度がかなり低いと考えられる。

(5) a (今朝はまだ新鮮だったリンゴが、夜になって腐ってしまった)

这个苹果坏了。

[このリンゴは腐った。]

b (誰が置いたかわからないが、机の上にある腐ったリンゴを見て)

??这个苹果坏着。

(6) a 校长先生和阿彻钩了钩小指头，校长先生笑了。阿彻看校长先生很高兴，也放心地笑了。

[トットちゃんは、先生と、指きりゲンマン！をした。先生は笑っていた。トットちゃんも、先生がうれしそうなを見て、安心して、笑った。]

(下地 2011b)

b??校长先生和阿彻钩了钩小指头，校长先生笑了。阿彻看校长先生很高兴，也放心地笑着。

宮崎・上野 1985 によれば、私たちは注視の対象を眺める際に、そのモノの外の形を見るのではなく、その背後にある運動や変化を見ている。要するに、動いているもの、変化が起こったものは私たちの注視の対象になりやすい。その「変化」について、古賀 2018 の用例を引用して説明する。

(7) 小胡哭红了眼睛。

[胡君は泣いて目が赤くなっている。] (古賀 2018 : 154)

古賀 2018 によれば、例 (7) において、動詞に後置する結果補語“红”は、“眼睛”の変化後の結果状態を示している。結果補語は動作“哭”によって“眼睛”がどうなったかを明示する成分である。つまり、例 (7) において変化が起こったのは“眼睛”であるため、私たちの注視点は動作主の“小胡”ではなく、“眼睛”である。

以上の宮崎・上野 1985 や古賀 2018 を踏まえ、本稿では、「注視点」の本質は「変化」であると主張する。これに基づいて、「注視点」は体詞項にどのように関与するか、またどのような特徴を有するかについて、第三章で詳しく考察する。

3. 体詞項と「注視点」

本稿では、文中の動詞（句）が表す動作の影響を受け、状態変化が起こった体詞項を「注視点」がある項と見なす。変化を伴う体詞項は注視点になりやすく、注視される対象であることから、文頭の主語位置に置かれ、主題（topic）となることが多いが、上述の例 (7) のように文末に置かれる目的語であるケースも存在する。例えば、例 (8) では、動作“摔”によって、「酒ビン」が割れていない状態から割れた状態へと変化しているため、例 (8) の注視点は主語の“那些家伙们”ではなく、目的語の“酒瓶”である。これに対し、例 (9)、例 (10) では、状態変化が発生したのは主語の“排水沟”と“小桥流水人家”であるため、例 (9) の注視点は“排水沟”、例 (10) の注視点は“小桥流水人家”である。以下、注視点が置かれる項を囲み線で示す。

(8) 那些家伙们大叫大嚷，往地下摔着酒瓶子。(凯鲁亚克《在路上》 BCC)

[その連中は大声で騒ぎながら、地面に酒ビンを投げつつけている。(酒ビンが割れた)]

(9) 雨季到了，村街头的排水沟还坏着，她花 3000 多元把它修好；……(例 (1) 再掲)

(10) 曾经是多少代读书人精神家园的“小桥流水人家”就这样一点点消失着。经典的江南所剩无几了。(文汇报 2002/11/19 BCC)

[かつて何代にも渡る読書人の精神の故郷であった「小橋流水人家」は、このように少しずつ消えていった。昔の江南の風景は、もはや残っていない。]

例 (8) の注視点である「酒ビン」は、割れた後、修復されて元の状態になり、再び割れていない状態から割れた状態に変化するとは考えられない。要するに、「酒ビン」の破損変化に再現性はない。これに対し、例 (9) の「排水溝」は、破損した後、修理され、再び壊れていない状態から壊れた状態に変化し得ることから、「排水溝」の破損変化には再現性がある。例 (10) の“小桥流水人家”は、後述の“江南”を指しているが、都市の発展に伴い、“江南”に激しい変化が起こり、かつて“小桥流水人家”と呼ばれた風景が少しずつ消えていく様子を描いている。「排水溝」の「破損、修復、破損…」という状態変化の再現とは異なり、“小桥流水人家”の消失変化は日々発生していることから、その消失の状態変化は「消失、消失、消失…」のように連続的に再現できる。このような変化にも再現性が見られる。

このように、「注視点」の変化には、例 (8) のような再現性を持たないタイプと、例 (9)、例 (10) のような再現性を持つタイプという二種類が観察される。本稿では、再現性を持たないタイプを「断裂的注視点」、再現性を持つタイプを「非断裂的注視点」と称し、「注視点」の下位類として位置付ける。以下では、「断裂的注視点」と「非断裂的注視点」の特徴を詳しく考察する。

3. 1. 「断裂的注視点」

「断裂的注視点」とは、文中の動詞(句)が表す動作の影響による注視点の状態変化に再現性がない「注視点」を指す。そのため、「断裂的注視点」を持つ文において重複を表す副詞“又”は共起し得ない。以下の用例を用いて説明する。

次の例 (11)、例 (12) において、状態変化が起こったのは“老王”と“我”であるため、例 (11) の注視点は“老王”であり、例 (12) の注視点は“我”である。例 (11) の「王さん」が、死亡後蘇り、再び死亡することや、例 (12) の「私」が、来年大学を卒業した後、再び大学を卒業することは、通常考えられない。統語上では、例 (11b)、(12b) が非文となること

からも分かるように、“老王”の死亡の状態変化、“我”の大学卒業の状態変化は再現性に欠けることは明らかである。

(11) a 老王死了三年了。

[王さんが死んで三年が経った。]

b*老王又死了三年了。

(12) a 明年, 我该大学毕业了。(刘勋宁 2002)

[来年、私は大学を卒業することになる。]

b*明年, 我又该大学毕业了。

本稿では、例(11)、例(12)のように、「注視点」となる体詞項の状態変化に再現性を持たない「注視点」を「断裂的注視点」と称する。「断裂的注視点」における状態変化は一回しか起こり得ないため、その状態変化には連続性が見られず、断裂的であるため、持続を表す“着”と共起することもできない⁽⁴⁾。

「断裂的注視点」における“V 着”構造が成立しないことを、更に例(13)を用いて説明する。例(13a)の“玻璃碎了”において状態変化が発生するのは“玻璃”であるため、“玻璃碎了”の注視点は“玻璃”である。同様に、“窗框子坏了”の注視点は“窗框子”である。

(13) a 玻璃碎了, 窗框子坏了, 全用木板一钉, 弄得房间里黑乎乎的。

(张洁《沉重的翅膀》 BCC)

[窓ガラスが割れ、窓枠が壊れたため、木板で釘付けしたら、部屋が暗くなった。]

b*玻璃又碎了, 窗框子又坏了, 全用木板一钉, 弄得房间里黑乎乎的。

c *玻璃碎着, 窗框子坏着, 全用木板一钉, 弄得房间里黑乎乎的。

例(13a)の文脈によると、窓ガラスや窓枠が修復されず、代わりに木板で釘付けられたということは、修復されていない“玻璃”、“窗框子”が再び壊れていない状態から壊れた状態に変化することは不可能である。したがって、例(13b)のように重複を表す副詞“又”とは共起できない。また、“玻璃”、“窗框子”の破損変化には連続性が見られないため、例(13c)で示すように、持続を表す“着”とは相性が悪く、共起することもできない。

3. 2. 「非断裂的注視点」

一方、「非断裂的注視点」とは、文中の動詞(句)が表す動作の影響による注視点の状態変化に再現性がある「注視点」を指す。「非断裂的注視点」には、「注視点」の状態変化は連続

的に変化するか循環的に変化するかによって、「連続的注視点」と「循環的注視点」の二種類が観察される。「連続的注視点」は持続を表す副詞“不断”と共起し得るのに対し、「循環的注視点」は重複を表す副詞“又”と共起する。以下、「連続的注視点」と「循環的注視点」の特徴についてそれぞれ詳しく考察する。

3. 2. 1. 「連続的注視点」

「連続的注視点」における「注視点」の状態変化について、以下の例（14）、例（15）を用いて説明する。例（14）の後半部では、“前进与退让，主动与被动”に状態変化が起きていることから、これが注視点となる。注視点である「前進・後退と主動性・受動性」の状態変化は「出現・出現・出現…」のように連続的に変化する。例（15）の注視点である「酒ビン」も同様であり、「破損・破損・破損…」のように連続的に変化する。連続的に変化するということから持続の意味が読み取れるため、文中の注視点は“不断”、“不停地”といった持続を表す成分と共起することが可能であり、持続を表すアスペクト助詞“着”とも共起できる。

（14）a 有时候，我们的工作一开始也做过细致的调查研究工作，提出的方针、计划也较为切合实际，但是在执行过程中，前进与退让，主动与被动还是交替出现着。

（人民日报 1963/11/5 BCC）

〔時に、私たちは仕事を始める際に詳細な調査研究を行い、掲げた方針や計画も現実に即したものであったとしても、実行の過程では前進と後退、主動性と受動性が交互に現れることがある。〕

b……但是在执行过程中，前进与退让，主动与被动还是不断地交替出现着。

（15）那些家伙们大叫大嚷，不停地往地下摔着酒瓶子。（例（8）改）

〔その連中は大声で騒ぎながら、ずっと地面に酒ビンを投げつづけている。（酒ビンが割れた）〕

一般に、例（14）の“出現”は持続性を持たない瞬間的変化を表す動詞として考えられている。しかし、注視点の角度から見ると、一種の持続性が見られる。持続を表す副詞“不断”と共起可能であるということは、その注視点の出現の状態変化は、つまり、出現していない状態から出現した状態への変化が連続的に発生していることを示唆する。例（14）の“出現着”は計画が実行される過程において、その進捗状況が前進と後退を繰り返したり、主動性と受動性が交互に現れ続けたりすることを表す。

本稿では、例（14）のように、「注視点」となる体詞項の状態変化に再現性があり、かつそ

の状態変化が連続的に発生する場合の「注視点」を「連続的注視点」と称する。「連続的注視点」における状態変化には連続性が見られるため、行為や変化の持続を表す“着”と共起でき、その“V 着”構造は文中の「注視点」の状態変化が連続的に発生することを表す。また、上述の例（15）では、“摔着”自体が成立することも、動作の持続を表す“不停地”も、文中の注視点である“酒瓶”における破損の状態変化は一回のみではなく、連続的に発生することが可能であることを示唆している。例（15）の注視点も「連続的注視点」と考えられる。“摔”自体は本来、持続性を持たない非持続動詞であるため、“着”と共起しにくい、「酒ビン」の破損の状態変化から考えれば、一種の持続性が見られる。そのため、たとえ“摔”が非持続動詞であっても、“着”と共起できるようになり、例（15）の“摔着”は酒ビンが投げつけられ続け、酒ビンの破損変化が連続的に発生することを表すのである。

3. 2. 2. 「循環的注視点」

「循環的注視点」における注視点の状態変化は、3.2.1.節で見た「連続的注視点」のように連続的に再現するのではなく、他の状態に変化してから再現することを表す。したがって重複を表す副詞“又”と共起することができる。

次の例（16）の注視点は“排水沟”であり、“村街头的排水沟又坏了”（村の通りにある排水溝がまた壊れた）のように、重複を表す副詞“又”と共起できることは、「排水溝」の破損という状態変化は再現することができることを示唆している。

（16）雨季到了，村街头的排水沟还坏着，她花 3000 多元把它修好；……（例（1）再掲）

本稿では、例（16）のように、注視点となる体詞項の状態変化に再現性があり、かつその状態変化が循環的に発生する場合の「注視点」を「循環的注視点」と称する。「循環的注視点」における状態変化は、次の状態変化が起こる直前まで持続しているため、状態の持続を表す“着”と共起できる。文中の“V 着”構造はその状態変化になってから、次の状態変化が起こる直前までの状態を表す。

次の例（17）も同様、“放松”は、「観光客たちの精神状態」が緊張状態から弛緩状態に変化していることを表す。そのため、例（17）の注視点は“自己的身心”である。

（17）a 在金顶上的开阔草地上，游客们或仰或卧，嬉闹追逐，放松着自己的身心，尽情地享受着峨眉山独有的“秀色”。（人民日报海外版 2003/01/29 BCC）

[広い頂上の草地に着くと、観光客たちは横になったり、楽しそうな表情を浮かべながら、追いかけてっこをしたり、くつろいだりして、峨眉山ならではの美しさを思う存分に楽しんでいた。]

b……在金顶上的开阔草地上，游客们或仰或卧，嬉闹追逐，又一次放松着自己的身心。

例(17b)は、例(17a)に“又”を挿入したものであるが、その注視点は例(17a)と同じ“自己的身心”である。文中の重複を表す副詞“又”は、「観光客たちの精神状態」が「弛緩、緊張、弛緩…」のように循環的に変化していることを表すため、ここでの注視点は「循環的注視点」と考えられる。

“放松”は非持続動詞であるため、一般に“着”とは共起できないと指摘されている(楊玉玲・应晨锦 2011)が、このように注視点である「観光客たちの精神状態」の角度から見ると、例(17)の“放松”という状態は、次の緊張状態まで持続することが分かる。したがって、“着”と共起でき、“放松着”となることで、観光客が弛緩状態に入ってから、次の緊張状態に変化する直前までの状態の持続を表すことができる。

以上では、「注視点」の種類及び特徴について論じた。次章では、文中で同一動詞が用いられながらも、注視点の種別の相違により、“V着”構造の容認度が異なる事例を取り上げ、両注視点が“V着”構造の成立にどのように働いているかについて論じる。

4. 「断裂的注視点」 対 「非断裂的注視点」

文中の注視点が個体体詞項や可算的な体詞項である場合、その体詞項に数量詞が付いているか付いていないかによって、“V着”構造の成立に与える影響が異なる。例えば、以下の例(18)～(20)を動詞の角度から考えれば、例(18)の“牺牲”、例(20)の“摔”は、いずれも持続性を持たない非持続動詞であるため、持続を表すアスペクト助詞“着”とは共起できず、例(18a)の“牺牲着”、例(20a)の“摔着”は不適格文である。しかし、例(18a)、例(20a)と比べ、例(18b)の“牺牲着”、例(20b)の“摔着”の容認度は比較的高い。その理由は文中の「注視点」に大きく関わっている。

(18) a*雷锋默默地守望着、奉献着、牺牲着。

b 站在洋溢着节日气氛的天安门广场上，我忽然想到，不知有多少那样的部队、那样的军人，为保卫头顶的这片蓝天和脚下的这方国土，在默默地守望着、奉献着、牺牲着。

(人民日报 1997 BCC)

[祝日の雰囲気漂う天安門広場に立ちながら、私はふと思った。自分の国を守るために、肅々と見守り、奉仕し、自分を犠牲にして国を守ってくれる軍隊、軍人がどれくらいいるのだろうか。]

(19) a*雷锋在不断地牺牲着。

b ……不知有多少那样的部队、那样的军人，为保卫头顶的这片蓝天和脚下的这方国土，在不断地牺牲着。

(20) a*他往地下摔着一个酒瓶子。

b 那些家伙们大叫大嚷，往地下摔着酒瓶子。（例（8）再掲）

[その連中は大声で騒ぎながら、地面に酒ビンを投げつづけている。(酒ビンが割れた)]

例（18a）、（20a）で示すように、注視点が“雷锋”のような個体単数体詞項、“一个酒瓶子”のような数量詞が付いている単数体詞項である場合、その犠牲や破損は一回しか起こらないため、「断裂的注視点」とであると解釈される。3.1.節で考察した通り、「断裂的注視点」における状態変化には持続性が見られないため、例（19a）のように文中に持続を表す副詞“不断”を付け加えても、“牺牲着”は依然として不適格である。一方、例（18b）、（20b）で示すように、注視点が“那样的部队、那样的军人”、“酒瓶子”のような数量詞が付いていない体詞項である場合、その犠牲や破損の状態変化は連続的に発生し得るため、持続性が見られ、たとえ文中の動詞が非持続動詞であっても、“着”と共起できる。

例（19b）は、例（18b）に“不断地”を挿入したものであるが、その注視点は例（18b）と同じ“那样的部队、那样的军人”である。持続を表す副詞“不断”と共起することは、注視点である“那样的部队、那样的军人”は一人ではなく、複数の軍人、軍隊からなる体詞項であることを示唆している。複数であるからこそ、“那样的部队、那样的军人”では連続的な犠牲変化が起こり得るため、ここでの注視点は「連続的注視点」とであると解釈される。“牺牲”は本来、非持続動詞であるが、注視点である“那样的部队、那样的军人”の犠牲変化から連続性が見られるため、非持続動詞の“牺牲”も“着”と共起できるようになる。

同様に、例（20）も「注視点」が数量詞が付いている体詞項であるか否かによって、例（20a）と例（20b）の“摔着”の成立に与える影響が異なる。例（20a）では、注視点である“一个酒瓶子”における酒ビンの破損変化は連続的に発生し得ないため、“摔着”は成立しない。これに対し、例（20b）の注視点である“酒瓶子”は単数体詞項ではなく、非単数体詞項である“酒瓶子”における酒ビンの破損変化は連続的に発生し得ることから、“摔着”は成立する。したがって、例（20b）の注視点の“酒瓶子”は「連続的注視点」と考えられるのである。

これまでの先行研究では、均質的な状態を表す“V着”構造は、起点と終点がない無界構造であるため、その後ろに有界構造である数量目的語を用いることはできないと指摘されてきた（下地 2010、方梅 2018）。これを「注視点」の観点から分析すれば、新たな解釈を加えることができる。次の例（21a）の注視点である“五个酒瓶子”が“一个接着一个”、“不停地”と共起できないのは、注視点である“五个酒瓶子”の破損変化は一回のみであり、連続的に発生す

るのではないことを示唆している。それに対し、例（21b）の注視点である“酒瓶”は、後半の文脈から例（21a）と同じく、五本の酒ビンであることが読み取れるが、例（21b）は成立する。これは、五本の酒ビンの破損が同時に発生したのではなく、一本一本連続的に発生したと解釈されるからである。

（21）a*他往地下一个接着一个，不停地摔着五个酒瓶。

b 他往地下一个接着一个，不停地摔着酒瓶，一共摔碎了五个酒瓶。（例（8）改）

〔彼はずっと地面に酒ビンを一本一本投げつけ、全部で五本割ってしまった。〕

上述の考察を通し、“V 着”構造の後ろに用いられる可算体詞項は、数量詞を伴う体詞項である場合、その体詞項の状態変化は一回のみ、断裂的であるため、“V 着”構造は不適格である。それに対し、数量詞を伴わない場合、その体詞項の状態変化は一つ一つ連続的に発生し得るため、“V 着”構造の容認度が高まるということが分かる。

次の例（22）、例（23）も同様である。例（22）の注視点の“老王”は個体単数体詞項であるため、再び死亡することは考えられず、その状態変化に連続性が見られないため、持続を表す“着”と共起できない。それに対し、例（23）の注視点の“瓢虫、蚂蚁、蚯蚓、蝴蝶”といった生物類は非単数体詞項である。無数の生物からなる集合における死亡の状態変化は連続的に発生することが可能であり、「連続的注視点」と解釈されるため、例（23）は成立する。

（22）老王死了三年了。（例（11）再掲）

（23）我知道，还有瓢虫、蚂蚁、蚯蚓、蝴蝶……也隐藏在那片草地里。在阳光下，在风雨里，各自生着、死着、爱着，轰轰烈烈却又平凡凡……（人民日报 1985 BCC）

〔太陽の下に、雨風の中に隠れているクワガタムシ、アリ、ミミズ、蝶々などは、…あの芝生の中で生きたり、死んだり、愛したりしていることが分かる。それは勇壮であり、ごく平凡でもある…〕

一方、「循環的注視点」において、注視点の状態変化は循環的に発生するため、ここから持続性を読み取ることができる。たとえ文中の動詞が非持続動詞であっても、“着”と共起できるようになる。例えば、以下の例（26）の“坏”、例（27）の“开始”はいずれも持続性を持たない非持続動詞である。それに加え、例（26a）の注視点である“杯子”の破損の状態変化、例（27a）の注視点である“尤・米・绍卡尔斯基号的第一次航行”の初回渡航の状態変化は一回のみであり、それらの注視点は再現性がない「断裂的注視点」と考えられる。「断裂的注視点」における注視点の状態変化には持続性が見られないため、例（26a）の“坏着”、例（27a）

の“开始着”は容認度が低く、不適格文である。

(26) a*这个杯子还坏着。

b 雨季到了，村街头的排水沟还坏着，她花 3000 多元把它修好；……（例（1）再掲）

(27) a*苏联一艘新的天气考察船“尤・米・绍卡爾斯基号”早已开始着它的第一次航行。

b 蒙汉两区人民在中国共产党统一领导下，早已开始着一种新的贸易关系。（例（2）再掲）

それに対し、例（26b）の“排水沟”、例（27b）の“贸易关系”はいずれも「循環的注視点」である。“坏”は非持続動詞であるが、注視点である“排水沟”の状態変化から考えれば、例（26b）の“坏”には直されるまでの破損状態の持続が見られ、状態の持続を表す副詞“还”を伴えば、“坏着”の容認度が高まる。例（27b）の“贸易关系”も同様である。“开始”は本来、非持続動詞であるが、注視点である“贸易关系”の状態変化から考えれば、例（27b）の“开始”には新しい貿易関係が開始されてから、中止されるまでの貿易状態の持続が見られ、文中に時間を表す副詞“早已”を伴うことで、“开始着”の容認度は高まる。

5. おわりに

本稿では、文中の動詞（句）が表す動作の影響を受け、状態変化が起こった体詞項を「注視点」がある項と見なし、その体詞項の状態変化が再現性を持つか否かに基づき、「注視点」を「断裂的注視点」と「非断裂的注視点」に下位分類した。

“V 着”の成立条件については、非持続動詞は持続性を持たないため、持続を表すアスペクト助詞“着”とは共起できないという指摘が多くなされてきたが、実際の使用例をコーパスで調べてみると、非持続動詞が“着”と共起する例が散見される。本稿では、非持続動詞であっても、“着”と共起できる理由について、「注視点」の観点から分析を行った。考察の結果を以下にまとめる。

文中の注視点が「断裂的注視点」である場合、「注視点」の状態変化は一回のみであり、持続性を持たない。そのため、たとえ文中に持続を表す副詞を付け加えたとしても、非持続動詞は持続を表すアスペクト助詞“着”と共起できない。つまり、「断裂的注視点」における“V 着”構造は成立しない。

これに対し、文中の注視点が「非断裂的注視点」である場合、「注視点」の状態変化は連続的或いは循環的であるため、非持続動詞による“V 着”構造の容認度が高まる。つまり、「非断裂的注視点」における“V 着”構造は成立する。

また、「非断裂的注視点」には、注視点の状態変化が連続的に再現するタイプの「連続的注

視点」と、循環的に再現するタイプの「循環的注視点」という二種類が観察される。「連続的注視点」における状態変化は連続的であり、“V着”構造はその注視点の状態変化が連続的に発生することを表すのに対し、「循環的注視点」における状態変化は循環的であり、“V着”構造はその状態変化になってから、次の状態変化が起こる直前までの状態を表す。

注

- (1) “坏”の品詞について、《现代汉语词典（第7版）》では、「壊れている」、「傷んでいる」などの意味を表す“坏”を形容詞としている。一方、『白水社中国語辞典』では、破損、変質、故障などによって、「傷んでいる」、「壊れている」、「腐っている」などの意味を表す“坏”を動詞として扱っている。

形容詞：坏鸡蛋/水果坏了/玩具摔坏了。《现代汉语词典（第7版）：566》
 [傷んだ卵/果物が腐った/おもちゃが落ちて壊れた。]

動詞：自行车坏了。[自転車が壊れた。]『白水社中国語辞典：573-574』

形容詞は“不”の修飾を受けるのに対し（朱德熙 1982）、動詞は“不”のみならず、“没有”の修飾も受ける（崔应贤 2010）。さらに、形容詞は“不”のほかに、“很”の修飾を受けることもできる（朱德熙 1982、吕叔湘・马庆株 2000 等）。以下の例（a）の“坏”は“不”の修飾も、“很”の修飾も受けられないことから、形容詞ではなく、動詞と見なすべきである。したがって、本稿では『白水社中国語辞典』の品詞規定に従い、「傷んでいる」、「壊れている」、「腐っている」などの意味を表す“坏”を動詞と見なす。

- (a) 水果坏了。
 水果没坏。/*水果不坏。
 *水果很坏。

- (2) 非持続動詞の意味的特徴と統語的特徴については、马庆株 1981、杨玉玲・应晨锦 2011 で次のような指摘が見られる。马庆株 1981 は、以下の例（b）に挙げるように、「動詞＋“了”＋時量目的語」構造における時量目的語が、動作が実現した後に経過した時間のみを表す場合、その動詞は「非持続動詞」とであると指摘している。

- (b) 已经死了三天了。（马庆株 1981：2）
 [既に死んで三年が経った。]

马庆株 1981 が「非持続動詞」をその意味的特徴に基づいて論じたのに対し、杨玉玲・应晨锦 2011 は、統語上における「非持続動詞」の構成条件について、例（c）を挙げ、「非持続動詞」は「動詞＋（目的語）＋時量目的語」構造にしか使えないことを指摘している。

- (c) 她回英国三个月了。
 [彼女がイギリスに帰って三ヶ月が経った。]
 *她回三个月英国了。
 *她回英国回三个月了。

（杨玉玲・应晨锦 2011：53）

- (3) これまでの視点研究では、日本語は「視座」に、中国語は「注視点」に関与することが指摘されてきた。日中両言語のヴォイスの選択では、例（e）で示すように、日本語では一人称など視点の序列が上位である存在が他動詞文や受動文の主語の位置を占めやすいのに対し、中国語では当該の事象の参与者において「+致使力」を有する存在、或いは注目に値するほど大きな「+変化」を被る存在などが注視する対象になりやすいため、他動詞文や

受動文の主語の位置を占める可能性が高い。それに対し、例 (f) のような「一致死力」、「一変化」の対象は主語になりにくいことが指摘されている (古賀 2018)。

(e) (事象：私が新一に話しかけた)

私は新一に話しかけた。 / *新一は私に話しかけられた。

(事象：新一が私に話しかけた)

私は新一に話しかけられた。 / ??新一は私に話しかけた。

(古賀 2018 : 149)

(f) 「+変化」：小王被小李拉走了。 [王君は李君に引っ張って行かれた。]

(古賀 2018 : 153)

「+致使力」：小王拉小李了。 [王君は李君を引っ張った。] (古賀 2018 : 156)

「一致死力・一変化」：??小王被小李拉了。 (古賀 2018 : 153)

(4) 以下の例 (g) のように状態が対比的に描写される形式 (ここでは”活着”と”死着”が対比的に描かれている) は考察の対象外とする。

(g) 她咬着牙狠狠地说：“我要他活着进来，死着出去！” (李国文《冬天里的春天》BCC)

[「彼には生きて入り、死んで出て行ってもらおう!」と彼女は歯ぎしりしながら容赦なく言った。]

参考文献

—日本語文献—

『白水社中国語辞典』2002. 伊地智善継編，白水社。

大江三郎 1975.『日英語の比較研究—主観性をめぐって—』，南雲堂。

久野暲 1978.『談話の文法』，大修館書店。

古賀悠太郎 2018.『現代日本語の視点の研究』，ひつじ書房。

佐伯胖 1978.『イメージ化による知識と学習』，東洋館出版社。

下地早智子 2004.「日中両語における文法現象としての視点の差異—移動動詞・受身の表現・テンス/アスペクトの場合—」，『神戸市外国語大学外国学研究』58 巻：59-75 頁。

下地早智子 2010.「現代中国語における「シテイル/シテイタ」相当表現：日中のアスペクト対立に見られる視点と主観性」，『神戸外大論叢』61 巻，2 号：87-108 頁。

下地早智子 2011a.「視点」の違いから見るアスペクト形式選択の日中差—非限界動作動詞の場合—」，第 27 回中日理論言語学研究会レジュメ。

下地早智子 2011b.「視点」の違いから見るアスペクト形式選択の日中差—非限界動作動詞の場合—」，『日中言語研究と日本語教育』第 4 号：23-32 頁。

張芑蕾 2019.「視点制約と主語の選択に関する日中対照研究—「～(テ)モラウ構文」とそれに対応する中国語を中心に—」，『WAKUMON』49：49-57 頁。

宮崎清孝・上野直樹 1985.『視点』，東京大学出版会。

榎山洋介 2010.『認知言語学入門』，研究社。

山田純 1985.「文における視点」，『日本語学』4 卷 12 号：32-40 頁。

—中国語文献—

《现代汉语词典（第7版）》2016. 中国社会科学院语言研究所词典编辑室，商务印书馆。

崔应贤2010.《现代汉语语法学习与研究入门》，清华大学出版社。

方梅2018.《浮现语法：基于汉语口语和书面语的研究》，商务印书馆。

郭锐 1993.《汉语动词的过程结构》，《中国语文》第 6 期：410-419 页。

马庆株 1981.《时量宾语和动词的类》，《中国语文》第 2 期：86-90 页。

吕叔湘·马庆株2000.《语法研究入门》，商务印书馆。

刘勋宁2002.《现代汉语句尾“了”的语法意义及其解说》，《世界汉语教学》第3期：70-79 页。

刘月华·潘文娒·故韡2019.《实用现代汉语语法（第三版）》，商务印书馆。

陆俭明1999.《“着”字补议》，《中国语文》第5期:331-336页。

税昌锡 2011.《事件过程与存现构式中的“了”和“着”》，《语言科学》第 10 卷第 3 期：231-245 页。

杨玉玲·应晨锦 2011.《现代汉语语法答问(上)》，北京大学出版社。

朱德熙 1982.《语法讲义》，商务印书馆。

左思民 2009.《动词的相关分类》，《华东师范大学学报》第 1 期：74-82 页。

例文出典

BCC：北京语言大学 BCC 语料库